

兵庫の未来図

多様性を力に

「兵庫県は合衆国」とよ
くいわれる。摂津、播磨、
但馬、丹波、淡路と風土の
異なる旧五国が一つにまと
まった成り立ちが、多くの
州で構成される米国を連想
させるからだろう。

「合衆国」は今日で15
0歳になる。1868（慶
応4）年7月12日、明治維
新の統治政策で兵庫県は誕
生した。初代知事は維新の
立役者、伊藤博文だ。最初
は各藩領の間に点在する旧
幕府領を治めた。やがて豊
岡県や飾磨県などと合併
し、8年後にはほぼ現在の
県域になった。

その経緯は、13州で独立
宣言し、他州を受け入れて
50州に拡大した米国の歩み
とも重なる。どちらも近代
になって人為的に創設され
た生い立ちを持つ。歴史が
浅い分だけ、未来に顔を向
けて歩んできた点も似てい
る。

ただ、「兵庫」はどこま
で一人一人の心のふるさと
になったか。「ふるさととは
遠きにあると思ふもの」と
書いたのは詩人の室生犀星
だ。私たちが遠くで思っ

るさと。それは旧五国より
も、もっと身近なわがまち
の風景かもしれない。

でも、それでいいのだろ
う。兵庫県には地域ごとに
いろんな顔がある。「何が
県民性かといつてもどう
もはつきりしない」（祖父
江孝男著『県民性』）。む
しろその多様性が他の都
道府県にはない強みといえ
る。

明治、大正、昭和、平成
から来年は新元号へ。戦争
や災害などにもさらされな
がら、坂を上り続けた15
0年。これからは人口が減
り、右肩上がりの成長は望
みにくい。求められるのは
暮らしの成熟、モノより心
の豊かさだ。

いま一度、周りを見渡し
てみよう。きらめく何かを
見つければ、遠いと思った
「ふるさと」が、わがまち
が、ぐっと近く思えるはず
だ。その心の動きが地域創
生の力になる。一つ一つの
地域がきら星のごとく光り
輝く「合衆国」こそ、描く
べき未来図ではないか。
（神戸新聞論説委員長・三
上喜美男）

（C）神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前

① 兵庫県は旧五国が一つにまとまってできた県と
言われます。それら五つの国を書きましよう。

② 兵庫県の初代知事はだれですか。

③ 「その心の動きが地域創生の力になる」とは、
次の2つの説明文のうち、どちらに近い意味
だと思えますか。
近いと思う方に○をつけましよう。

() 地域の様子をよく見渡して、新たな魅力を
発見したり、可能性に気づいたりすることが、
地域社会の活性化につながっていくこと。

() 地域の様子をよく見渡して、古いものを
全て捨て去り、全く新しい考えに基づいて
地域社会を作り変えていくこと。